



# 自己を知り 感性を磨いて 質の高い看護を

## 中瀬美恵子さん

浅ノ川総合病院  
副病院長  
看護部長

一九五八年石川県生まれ。八二年国立山中病院附属看護学校卒、金沢赤十字病院勤務。九一年浅ノ川総合病院副病院長、九四年同病院長。二〇〇〇年に金沢経済大学経営学部卒業、〇三年金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻前期博士課程修了、〇四年副看護部長、〇六年看護部長。一二年より現職。



北陸新幹線が開業し賑わう金沢の北部にあり、民間病院として北陸一の規模を誇る浅ノ川総合病院。地域密着型の基幹病院であると同時に、最先端の高度医療を提供している。放射線のメスと呼ばれる「ガンマナイフ」「パリス」の二種類の最先端装置を備え、がんなどの放射線治療で高い実績を上げている。

副病院長を兼務して三年目。看護部長の中瀬美恵子さんが今最も力を注いでいるのは、師長など管理者の育成だと語る。

「人をどう見て、どう管理し育てていくか、日頃からコミュニケーションを密に取りながら、指導するようにしています」

管理者教育の中心に据えているのは「自己を振り返ること」だ。管理者には、相手のためにどうするのがいいか、何ができるかを考える利他的な視点が求められるが、そのためにはまず自分自身を知ることが欠かせない。

「人を気遣い、良い人間関係を築くために最も大切なことは、人間性や感性を磨くことです。とにかくいろいろなものに触れて知識や体験を広げてほしい。折に触れてそう指導しています」

定年も視野に入る年齢になって、今後の課題だと考えていることが二つある。一つは自身の経験からつかんだこと、培ってきたことを後進に伝えるため、文章などの形で残している

こと。もう一つは、看護師という仕事を一般に広く知ってもらうことだ。

一人ひとり、その時どきで異なる患者のニーズをいち早く察知し、技術提供だけでなく、患者を元気づけて病気を治す力を引き出す。患者の人生そのものに触れることも多い看護の計り知れない奥深さ。夜勤がある激務にもかかわらず、多くの看護師が子育てをしながらも働き続けるのは、やりがいを実感でき、確実に自分が成長できる仕事だからだ。そんな看護師という仕事の素晴らしさを、伝えていきたいという。

中瀬さんは勤めながら大学や大学院で学んだ努力家だ。病院では看護部を牽引する立場として太陽のように明るく人を照らす。口調もはきはきと明快で、話していると元気をもらっている気持ちになる。

「そう思ってもらえることが、私の一番の強みかもしれませんね」

自分にも人にも否定的にならずにいい面を見つめ、日々楽しいことを探すよう心がけている。

病院を出る瞬間から完全にオフに切り替えて、仕事は引きずらない。「娘には、病院と家では顔が全然違う、と言われます(笑)」

若い頃は自動車ラリーなど趣味も多かったが、今、休日は家でのおんびり。録画したサスペンスドラマを見てたっぷり眠るのがリフレッシュの秘訣だそう。